

21. KONZERT

Kobe Universität Orchester

Dirigent Okuda Shingo
 Ogawa Hiroshi
 Murakami Kenji
Solistin Ogawa Makiko

Zeit: am 6. Dezember 1971

 6:30 Uhr abends

Ort: Kobe Kokusaikaikan

神戸大学交響楽団

第21回定期演奏会

昭和46年12月6日
神戸国際会館

PROGRAM

- | | | |
|--|-----|---------------------|
| J. Strauss | I | ヨハン・シュトラウス |
| Die Fledermaus Overture | | 喜歌劇「こうもり」序曲 |
| Singo Okuda | II | 奥田伸悟 |
| Symphonic Mutation
"The Remainder of Silence" | | 交響的変容「沈黙の残部」(初演) |
| Chopin | III | ショパン |
| Piano Concerto No.1 E-minor Op.11 | | ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 |

< intermission >

- | | | |
|-----------------------------|----|------------------|
| Tschaikowsky | IV | チャイコフスキー |
| Symphony No.5 E-minor Op.64 | | 交響曲 第5番 ホ短調 作品64 |

Conductor: Shingo Okuda	指揮	奥田伸悟
Hiroshi Ogawa		小川博司
Kenji Murakami		村上憲司
Piano solo: Makiko Ogawa	ピアノ独奏	小川万喜子
Soprano: Kumiko Hayashi	ソプラノ	林久美子



音楽監督 奥田伸悟

氏は在学中の第17回定期演奏会でフランクの交響曲二短調を指揮され、また昨年の第20回定期演奏会でショスタコーヴィチの交響曲第5番を客演指揮されいづれも好評を得た。さらに今年4月から我がオケの音楽監督をお願いしている。氏の音楽活動は幅広く、昨年は万国博の音楽スタッフとして参加され、今年に入ってからには神戸交響楽団でハイドン等の交響曲の客演指揮、芦屋室内合奏団でドボルザーク等の作品の指揮と活躍されている。また今日は氏の作品が自らの指揮で初演されることになっている。作曲指揮を中元清純氏に師事。所属 企画制作「ミュージック・セリエル」

指揮者 小川博司

今日の演奏会で彼は指揮棒をまる2年間振り続けたことになる。口数は少ないが、そのリズム感、音感、誰よりも鋭く、それ故に彼に寄せる部員の信頼も非常に厚い。また彼は大のワルター狂である。なぜ彼がワルターに傾倒したか？それは恐らく人間本来の感情、ヒューマニティを尊重し、人一倍愛しているからである



う。そしてロマンティズムをその基礎とする彼の音楽性は日頃のトレーニングを通じて、徐々に部員達の中に浸透してきたようである。それでもなかなか思い通りの音が出ない事を悩んでいる。もっとも、女の子のことは思い通りになるらしいが……。

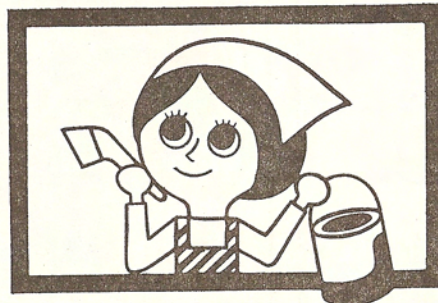
なお、彼は理学部数学科に籍をおいている。参考までに……。

指揮者 村上憲司

彼は非常に音楽狂である。始めて1年あまりのピオラを流暢に弾きこなし、カルテットを楽しみ、オケで棒をふる。彼の快活な性質は躍動的なる音楽を作りだすリズム・テンポに要注意。ところが彼は指揮している最中に、全くうけないダジャレを連発するくせがある。とっくの昔に白けている我々部員をしり目に、なおも言いつづけるあたりはさすが根性の持ち主である。また、大変なテープマニアでもある彼は、玉ネギ片手にマタイ・ロ短調に涙を流し、プレスリーにしびれる。言いよる女の子には見向きもせず、ひたすら音楽に打ちこむ—そんな彼こそ我がオケの象徴的存在ではあるまいか。

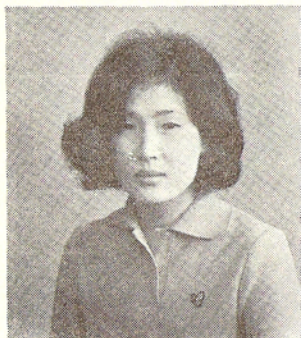
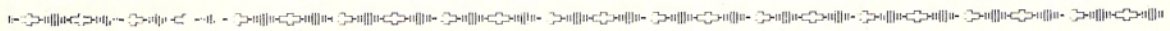


だれにでも
楽しく
塗れます



・明日の暮らしをいろどる日べ・

ホーム
日本ペイント



ソリスト
小川万喜子

昭和24年2月9日、京都に生まれる。5才より柳父幸子、梅田志づ両先生に師事。華頂女子高校を卒業後、東京芸術大学に入学。田村宏、松野景一両氏に師事。現在、器楽科ピアノ専攻4回生。

コンサートマスター
河南美代子



一つの愛が僕等に多くの世界を開いてくれることだろう。寡黙のヴェールによってあなたはその秘密をあふなげに包んでいるのかもしれないのです。四年に及ぶこの共同体との愛情。又、その最後の一年はコンマスとしての重責を、その苦勞を僕等は知る由もないが、立派にはたされたあなたに僕等は一つの言葉を送りたいのです。——愛とは互いに相間見えることではなく、一つの希望を見つめあうことなのかもしれない。

コンサートマスター
福井 啓



ラブソディー・イン・ブルーのメロディーとともに、どこからともなく登場する、それが我らのコンマスである。管楽器パートのボスとして、下級生どもを指導した。また、昨年は部員達の憎しみの的である会計を難なく努めあげた。それは何故であろうか？理由は至極明瞭：工学部生産機械学科でキカイをいじくりまわすこと4年、だからしぜん金属製品—moneyに愛着を感じるからである。でもその功績に対しては深謝いたします。

名曲喫茶
らんぷる

神戸・三宮トアーロード高架上る東側
TEL 331 - 0 2 8 1